

令和4年度

研修のあゆみ

— 年報 —



山形県青年の家

目 次

はじめに 「この一年を振り返って」	
1 令和4年度 運営のあり方	1
2 事業	
(1) YYボランティアビューロー	2
(2) ボランティア指導者研修会	6
(3) ボランティア実践セミナー	7
(4) ボランティアの集い	8
(5) 青年の家コーディネーターボランティアサークル「nicoこえ」運営	9
(6) 青少年防災・減災未来フォーラム2022	12
(7) 地域をつくるリーダーセミナー	13
(8) 持続可能な社会づくり体験1、2	14
(9) 若者自立支援体験活動1、2	16
(10) 家庭教育支援研修会1、2	18
3 令和4年度研修利用団体一覧	20
4 令和4年度研修利用状況	22
5 令和4年度研修利用実績一覧	24
6 組織および職員構成	25

研修事業の移り変わり（過去5年間）

区分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	区分	令和4年度
青少年育成・ボランティア	YYボランティアビューロー	YYボランティアビューロー	YYボランティアビューロー	YYボランティアビューロー	青少年育成・ボランティア	YYボランティアビューロー
	・YYボランティアの集い ・ボランティア関係者研修会 ・ボランティア実践研修会 ・夏休み学習ボランティア ・地域と学校の防災力を高める研修会	・YYボランティアの集い ・ボランティア関係者研修会 ・青年の家開所60周年記念「YYボランティア推進研修会」 ・ボランティア実践研修会 ・地域と学校の防災力を高める研修会	・YYボランティアの集い ・ボランティア関係者研修会 ・青ボランティア実践研修会 ・地域と学校の防災力を高める研修会 ・TAT（TEAMオールてんどう）プロジェクト②	・YYボランティアの集い ・ボランティア関係者研修会 ・青ボランティア実践研修会 ・地域と学校の防災力を高める研修会 ・TAT（TEAMオールてんどう）プロジェクト②		・ボランティアの集い ・ボランティア指導者研修会 ・ボランティア実践セミナー ・青年の家コーディネーターボランティアサークル「nicoこえ」支援
次世代を担うリーダーの育成	青年による持続可能な地域づくり推進事業	青年による持続可能な地域づくり推進事業	次世代の地域づくり中核人材育成事業 TATプロジェクト①③	次世代の地域づくり中核人材育成事業 TATプロジェクト①③	青少年活動による支援の地域	次世代の地域づくり中核人材育成事業
	高校生主権者教育セミナー	高校生主権者教育セミナー	地域をつくるリーダーセミナー	地域をつくるリーダーセミナー		・青少年防災・減災未来フォーラム ・地域をつくるリーダーセミナー ・持続可能な社会づくり体験「SDGs×スポGOMI」 「SDGs×地域文化」
現代的課題に関わる青少年	若者自立支援活動 家庭教育支援研修会	若者自立支援活動 家庭教育支援研修会 オールてんどう社会教育懇談会	若者自立支援活動 家庭教育支援研修会	若者自立支援活動 家庭教育支援研修会	現代的課題に関わる青少年	・若者自立支援体験活動「スポーツでわいわい」 「アートでわいわい」 ・家庭教育支援研修会「食育×スポーツ」 「コミュニケーション×アート」

表紙 写真 上：『ボランティア指導者研修会』、『ボランティアの集い』の集合写真
 中：『ボランティアサークル「nicoこえ」』、『青少年防災・減災未来フォーラム』の集合写真
 下：『持続可能な社会づくり体験1「SDGs×スポGOMI」』の集合写真

この1年を振り返って

所長 齋藤 一志

<はじめに>

コロナ禍は本所の活動にも多大な影響を及ぼしてきましたが、ようやく出口が見えてきました。令和5年5月に予定される新型コロナウイルスの5類移行に伴い、多くの規制が緩和されます。コロナ禍の元でも工夫しながら繋いできた研修やボランティア活動は、コロナを克服した後の活動にも良い変化をもたらしてくれるに違いありません。新たな工夫を加えた活動がこれからのスタンダードになると確信しています。

<主催する研修等>

すべての研修を参集して実施できたのは3年ぶりでした。防災・減災やリモートでの高齢者交流、アートなど、新しいテーマにも取り組んできました。

- (1) 青少年ボランティアの育成・支援に係る研修
ボランティアの集い、ボランティア指導者研修会、ボランティア実践セミナー、「nicoこえ」運営
- (2) 青少年の地域活動の支援に係る研修
青少年防災・減災未来フォーラム、地域をつくるリーダーセミナー、持続可能な社会づくり体験「SDGs×スポGOMI」「SDGs×地域文化」
- (3) 青少年に関わる現代的課題への対応に係る研修
若者自立支援体験活動「スポーツでわいわい」「アートでわいわい」、家庭教育支援研修会「食育×スポーツ」「コミュニケーション×アート」

<YYボランティアの中央センターとして>

学校外でのボランティアは明確に拡大しています。夏の体験ボランティアの参加者数は昨年度の344名から744名と倍増、高校3年生対象の実態調査の校外でのボランティア経験者率も24.4%と昨年度と同率を記録しました。3年間コロナ禍のもとで過ごした生徒達が、それ以前と変わらない活動をしていることには元気づけられます。一方で少子化や認知度不足(高校生では15%程度)に伴うYYボランティアサークルの会員数減少が大きな影響を与えています。

<新たな種が芽吹いた年>

今年度はYYボランティアの活性化に向けた新たな工夫が一気に花開いた年でした。来年度はこれらの取組みをさらに大きく育てます。

●青年の家コーディネートボランティアサークル「nicoこえ」の活躍

「nicoこえ」は地域や世代の垣根を越えた活動にチャレンジして、YYボランティアに成果を還元していきこうと立ち上げたサークルです。大学生3名、高校生19名が毎週のように活動しています。令和5年度は軸となる小児がん支援のレモネードスタンドプロジェクトを全県展開していく予定です。

●YYボランティアキャラバン

YYボランティアの認知度不足を解消するため、高校でYYボランティアを紹介するキャラバンを始めました。今年度は村山地区中心に24校で実施、学校からの反響で令和5年度は全県に拡大します。

●SNSを活用した情報発信(インスタグラム、ツイッター、YouTube)

合わせて取り組んだのが、SNS等による情報発信です。ほぼ毎日更新しているインスタグラムのフォロワーは1,700を超えました。情報提供や活動のPRに加えて、今後サークル同士の交流のマッチングに繋がる取組等を通して支援していく予定です。

1 令和4年度 運営のあり方

I 教育目標

多様な活動や交流をとおして持続可能な社会づくりへの参画を促し、自立と共助の精神に満ちた青少年を育成する。

II 運営方針

- 1 人や社会との関わりにつながる多様な交流・体験活動の機会や情報の提供を通じて、地域社会への主体的な参画を促し、青少年の社会力の育成に努める。
- 2 学校及び関係機関・団体との連携を通じて、社会教育と学校教育をつなぎ、次代を担う人づくりに努める。
- 3 安全・安心な施設管理とコミュニケーションを重視した心の通う施設運営を通じて、豊かな人間関係づくりを支援し、青少年の健全育成に努める。

III 運営の重点目標

- 1 研修プログラムの開発・提供（主催事業）
 - (1) 青少年ボランティアの育成・支援に係る研修
 - ① 青少年ボランティア活動及び指導者への支援の充実
 - ② 青少年の社会貢献に係る興味関心を学びと実践につなげる研修の提供
 - ③ 新設ボランティアサークル「nicoこえ」の活動定着と自走支援
 - (2) 青少年による地域活動の支援に係る研修
 - ① 青少年の防災・減災教育に資するフォーラムの開催
 - ② 地域のよさや課題を捉え、地域の人との協働につながる研修の提供
 - ③ SDGsを体験的に学ぶ機会の提供
 - (3) 青少年に関わる現代的課題への対応に係る研修
 - ① 特別な事情を有する青少年の自立支援に資する体験機会の提供
 - ② 子どもと一緒に参加でき親子に笑顔が生まれる家庭教育支援研修の提供
 - ③ スポーツやアートなど多様な研修プログラムの開発・提供
- 2 地域青少年ボランティア活動推進事業（主管事業）
 - (1) 中高生の心に届ける「夏の体験ボランティア」キャンペーンの展開
 - (2) 学校・市町村・関係団体等への支援に資する情報収集と提供
- 3 次世代の地域づくり中核人材育成事業（事務局支援）
 - (1) 各地区の実践記録集の作成と配布を支援
- 4 関係機関・団体等との協働の推進
 - (1) 研修プログラムの質の向上に資する多様で新しい関係者との協働の推進
- 5 青少年のICT環境に対応した広報の推進
 - (1) 青少年に「伝わる」「つながる」ことを重視した広報マネジメントの確立
- 6 施設の有効利用と安全管理
 - (1) 県民の多様なニーズに応えられる施設運営と広報
 - (2) 定期的な施設・設備の安全点検による事故防止
 - (3) 防災・防犯に資する安全管理マニュアルの点検改善と各種訓練の実施

2 事 業

(1) YYボランティアビューロー

1 YYボランティアビューローについて

県内の地域青少年ボランティア（YYボランティア）の中央センターとして、インターネット及びホームページを活用し、各サークルの情報の収集・提供を行った。また、YYボランティアの活動や関連事業の情報等をSNSの利活用を通じて積極的に県内外に発信し、フォロワーの増加とともにホームページへの閲覧誘導に貢献した。

昨年度よりも実施団体や参加者が増加した中で「夏の体験ボランティア」を実施することができた。「ボランティア出前講座」について、例年の高校やサークルに加えて、山形大学の工学部や県教育センターからの依頼があった。また、YYボランティアの活動を紹介する展示の高校巡回（YYボランティアキャラバン）も開始し、YYボランティアの認知度向上に寄与している。

2 山形県地域青少年ボランティア推進会議

地域青少年ボランティアの活性化を図るために、各サークルの指導者及び学校・教育行政・社会福祉協議会など幅広い関係者に推進委員を引き受けていただき、様々な見地から意見や助言・提言をいただいた。（第1回、第2回ともリモート開催）

第1回の会議では、本事業の事業計画や高校3年生のボランティア活動の現状と課題を報告した。協議では、関係諸機関による事業連携の方策や情報発信における連携の方策についてご意見をいただいた。

第2回では、一年間の活動報告を行い、ブレイクアウトセッションにより班毎に本年度におけるボランティア活動の動向と令和5年度地域青少年ボランティア活動推進に向けてのテーマでご意見をいただき、全体共有を行った。



推進会議委員 ※敬称略

松田 道雄（尚絅学院大学 人文社会学群 教授）
渡邊 哲也（村山地区YYボランティア指導者）
井上多加志（最上地区YYボランティア指導者）
淀野 秀樹（山形県福祉教育ボランティア研究協議会）
菅原 知子（庄内地区YYボランティア指導者）
菊地 忍（山形県社会福祉協議会）
山口 四郎（山形県子ども会育成連合会会長）
原田 正明（朝日町立朝日中学校）
高橋 良治（山形県立山形工業高等学校長）
軽部隆一郎（山形県教育庁義務教育課）
鈴木 貴志（山形県教育庁高校教育課）

3 YYボランティアサークル支援

ボランティア活動を普及させるために、学校関係やYYボランティアサークル等からの依頼に対して、職員が学校や公民館、その他の施設に出向いて実施している。主に学校やサークルでは、今後の様々な活動を円滑に行えるようなアイスブレイキングやエンカウンターの実際やYYボランティアの紹介をメインにしたボランティア講座を主に行っている。

<出前講座実施一覧>

4/13(水)	寒河江工業高校1年	71名
4/21(木)	東桜学館中学校1年	107名
6/17(金)	山形大学工学部	52名
6/20(月)	MYボランティアセミナー(北村山)	51名
6/21(火)	MYボランティアセミナー(西村山)	60名
7/15(金)	YYボランティアサークルBen's	7名
10/31(月)	県教育センター職員	43名



新たなサークル支援の取組として、ボランティア推進委員のアドバイスをいただき「ＹＹボランティアキャラバン」を開始した。村山地区を中心に公立私立合わせて24の高校を巡回した。効果が徐々に出ており、それを見た生徒が、青年の家と連絡を取りボランティアサークルに加入する事例が見られた。

＜ＹＹボランティアキャラバン実施校24校＞

10/31山形工業高校、11/8山形北高校

11/17山形東高校、11/25上山明新館高校

12/1山形西高校、天童高校

12/9山形中央高校、山辺高校

12/15山形商業高校、東海山形高校

1/6北村山高校、村山産業高校

1/17寒河江工業高校、左沢高校

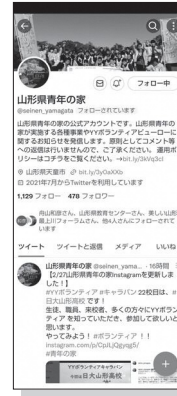
1/25寒河江高校、2/2谷地高校

2/9東桜学館高校、2/10山形南高校

2/16創学館高校、2/17城北高校

2/22山形学院高校、日大山形高校

3/1明正高校、3/3惺山高校



(2) ホームページの運用

今年度は、コロナ禍の中で万全な対策を講じた上で、ボランティア関連の青年の家主催事業や地区センターの中学生向けセミナー、夏の体験ボランティアなど可能な限り開催することができたため、ボランティア関連の記事を非常に多く掲載することができた。各サークルからの情報提供だけでなく、青年の家職員が現場に向き、取材することにより、第一次情報を掲載することができた。また、ホームページへの閲覧誘導や総合的に青少年ボランティア活動の推進を目的としてSNSを活用し、インスタグラムでは日常の話題を含め、ＹＹボランティアサークルの活躍の様子、青年の家コーディネートボランティアサークル「nicoこえ」の話題などを毎日アップし、投稿218、フォロワー1,711、フォロー2,652(2023.2.22現在)になっている。また、ツイッターにおいてもインスタグラムと連動し、ホームページへの誘導に貢献し202件のツイート、1,128のフォロー、457フォロワーとなっている。(2023.2.22現在)

さらにYouTubeも開設し、定期的に投稿する予定である。

ホームページのアクセス数は昨年度より増加し、1日平均596件(昨年度は540件)だった。

4 情報の収集・提供及びホームページ

(1) 『山形県の青少年地域活動団体一覧』

12月に、地区ごとの団体数、人数、年代構成等について一回の調査を実施している。

2022年12月現在活動中の団体は、ＹＹボランティアサークルが46団体(674名)、青年団体が79団体(1,679名)である。内容はデータとして編集し各サークルはじめ関係機関に送付して情報を提供した。特にＹＹボランティアサークルは統合した関係で2サークル減少したが、青年団体の登録が昨年度に比べて13団体増加した。



5 夏の体験ボランティア

各サークル及び団体・施設からボランティア企画を集めて地区ごとにリーフレットとしてまとめ、県内の中学生及び高校生の全員、市町村教育委員会等の関係機関に配布して、ボランティア体験が可能な場の情報を提供した。

昨年度の企画数30から大幅に増加し、今年度は企画数52となった。18企画がコロナ禍の影響で中止となったものの、34企画が実施し、744名の参加者数となった。(昨年度は参加者数344名)

協力してくれた団体・施設数は41になり、昨年度の2倍の数になった。また、例年協力いただいている団体の他に新規に大人数のボランティアを受け入れた団体があり、中高生のボランティアニーズに応える形となり、非常にありがたかったが、それでも県内での高校生のボランティアに対する要望が高く、地域横断的な後方の取組が必要であると感じた。



6 高校3年生のボランティア活動実態調査

今年度も県内の全日制の高等学校に依頼して、調査紙を配布し回収する形で調査を行った。県内の全高校生の在学中のボランティア活動経験率73.5%(公立高校77.1%、私立高校65.6%)となった。高校生が取り組んでいるボランティア活動の分野は環境整備(57.3%)、文化振興(15.7%)、子育て支援(7.0%)などであった。また高校生が関心を持つボランティア活動分野として環境整備(21.6%)、子育て支援(14.4%)、災害防災支援(12.3%)の順になった。

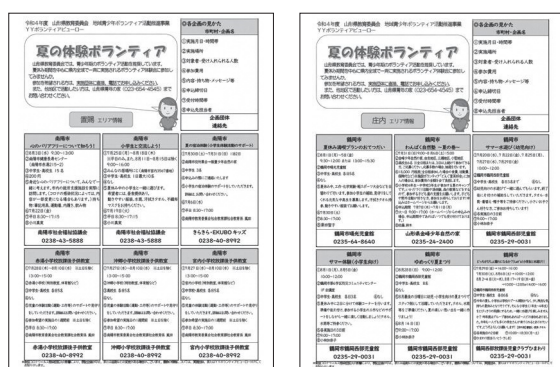
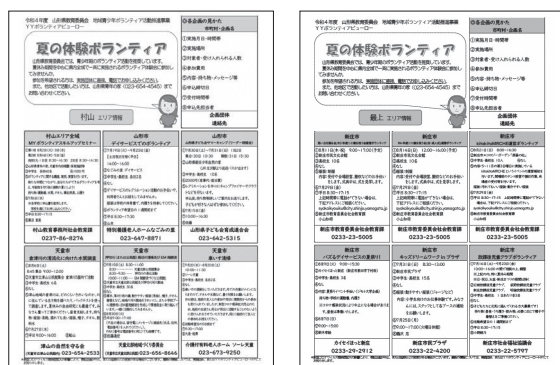
7 成果・課題

(1) 成果

- ① Y Yボランティア中央センターとして、県内4つの地区センターと連携し、市町村教育委員会や県・市町村社会福祉協議会等、関係機関と情報共有・交換を進め、取材や「nicoこえ」の支援を通して、直接のかかわりを持つことができた。
- ② 夏の体験ボランティアは、募集定員を超える応募があり、ボランティアに対する中高生のニーズが高く、問い合わせも多かったため、次年度はさらに拡大を目指す。
- ③ 青少年ボランティアの広報・推進に関して、ホームページの活用のみならず、SNSをあらゆる場面で活用することで特に高校生に直接届ける情報発信に心掛け、手ごたえを感じた。

(2) 課題

学校教育におけるGIGAスクール構想により、一人一台端末の活用が日常となり、青少年ボランティアの情報発信の変容や実態調査の活用、ボランティア研修及び講座の形態など、社会教育においてもDX化を取り入れることが必須となるであろう。



8 参考数値

(1) 令和4年度 青少年地域活動団体の状況

【サークル数の状況】

【サークル会員数の状況】

① YYボランティアサークル

地区	R3	R4	増減
村山	14	15	1
最上	11	10	▼1
置賜	8	8	0
庄内	15	13	▼2
県全体	48	46	▼2

① YYボランティアサークル

地区	総数		男子		女子		小学生		中学生		高校生		大学生等		勤労青年	
	R3	R4	R3	R4	R3	R4	R3	R4	R3	R4	R3	R4	R3	R4	R3	R4
村山	218	189	51	47	167	142	0	0	91	66	110	111	7	6	10	6
最上	138	92	33	10	105	82	0	0	2	2	136	90	0	0	0	0
置賜	194	220	52	47	142	173	42	65	75	84	77	71	0	0	0	0
庄内	253	173	71	36	182	137	0	0	176	107	76	66	1	0	0	0
県全体	803	674	207	140	596	534	42	65	344	259	399	338	8	6	10	6

② 青年地域活動団体数

地区	R3	R4	増減
村山	19	30	11
最上	9	8	▼1
置賜	31	32	1
庄内	7	9	2
県全体	66	79	13

② 青年地域活動団体数

地区	総数		男子		女子		小学生		中学生		高校生		大学生等		勤労青年	
	R3	R4	R3	R4	R3	R4	R3	R4	R3	R4	R3	R4	R3	R4	R3	R4
村山	537	930	94	360	443	570	0	0	0	2	0	7	452	792	85	129
最上	95	83	40	28	55	55	0	0	2	2	21	29	10	16	62	36
置賜	489	516	260	281	199	235	6	9	2	4	2	11	119	123	360	369
庄内	113	150	58	76	55	74	0	0	1	0	9	32	49	70	54	48
県全体	1,234	1,679	452	745	752	934	6	9	5	8	32	79	630	1,001	561	582

③ 合計 (①+②)

地区	R3	R4	増減
村山	33	45	12
最上	20	18	▼2
置賜	39	40	1
庄内	22	22	0
県全体	114	125	11

③ 合計 (①+②)

地区	総数		男子		女子		小学生		中学生		高校生		大学生等		勤労青年	
	R3	R4	R3	R4	R3	R4	R3	R4	R3	R4	R3	R4	R3	R4	R3	R4
村山	755	1,119	145	407	610	712	0	0	91	68	110	118	459	798	95	135
最上	233	175	73	38	160	137	0	0	4	4	157	119	10	16	62	36
置賜	683	736	312	328	341	408	48	74	77	88	79	82	119	123	360	369
庄内	366	323	129	112	237	211	0	0	177	107	85	98	50	70	54	48
県全体	2,037	2,353	659	885	1,348	1,468	48	74	349	267	431	417	638	1,007	571	588

(2) 「季節の体験ボランティア」参加者数の推移

●活動体験者数 (ボランティアサークル未加入者)

	R4	R3	R2	R1	H30	H29	H28	H27
小学生	6	9	*	23	19	36	40	95
中学生	171	96	*	266	226	231	279	298
高校生	475	116	*	766	982	738	655	710
大学生等	1	3	*	55	46	17	21	23
その他	16	22	*	33	111	57	97	122
担当職員	26	28	*	44	87	37	64	239
合計	695	274	*	1,187	1,471	1,116	1,156	1,487

●活動会員数 (ボランティアサークル会員)

	R4	R3	R2	R1	H30	H29	H28	H27
小学生	0	0	*	0	0	0	0	0
中学生	15	8	*	14	23	16	37	27
高校生	24	58	*	130	177	92	116	145
大学生等	0	0	*	0	3	0	0	2
その他	3	1	*	12	4	1	8	4
担当職員	7	3	*	8	36	12	20	16
合計	49	70	*	164	243	121	181	194
総合計	744	344	*	1,351	1,714	1,237	1,337	1,681

(注)・平成29年度からは「夏の体験ボランティア」のみ実施。

・令和2年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から実施しなかった。

(2) ボランティア指導者研修会

1 ねらい

「話し合いのスキル」「リーダーシップ」などを活用し、ボランティア活動を活性化させるためのヒントをつかむ。

2 期日・会場

令和4年5月27日(金)・県青年の家

3 参加対象

市町村教育委員会社会教育担当課職員
青少年ボランティアサークル担当者
社会福祉協議会ボランティア担当者等

4 日程

9:30 受付開始

10:00 開会行事

10:15 ワークショップ

テーマ「ボランティア活動の仲間同士が聴きあい、認めあい、分かちあい、支えあう関係を構築するには？」

①オープニング

②「ボランティア活動の支援者としてのありたい姿は？」

③ボランティア活動を活性化させるための「話し合いのスキル」、「リーダーシップ」とは？

④事例発表

YYボランティアサークル【夢憧布】

発表者 渡邊 哲也 氏

(大江町教育委員会教育文化課)

⑤ふりかえり

⑥全体共有

⑦クロージング

16:20 閉会行事

(12:00～13:00 昼食・休憩)



5 参加者

参加者総数18名

(県及び市町村教育委員会関係者12名

市町村社会福祉協議会関係者6名)



6 成果・課題

(1) 成果

①今年度最初の事業として、万全のコロナ感染対策を講じた上で、予定どおり開催することができた。参加者アンケート結果より、参加者の満足度が非常に高かった。

②講師の意向で流れと手法を考えた一日の講座としたため、参加者はじっくりボランティア活動支援について考え、意見交換し、ファシリテーションの手法を学べた。

③事例発表をあえて後半に行うことで、参加者のボランティア活動支援のモチベーションを高めることができた。講師のマネジメント力によるところが大きい。

(2) 課題

①メンバーを固定したグループワークにより、交流が深められた半面、メンバーの入れ替え等で活性化させる手法も考えられた。



(3) ボランティア実践セミナー

1 ねらい

ボランティアに携わる青少年等に、ボランティアに対する理解を深め、活動に役立つ知識・技術を習得し、新たな活動分野について考える機会を提供する。

2 期日・会場

令和4年9月3日(土)・県青年の家

3 参加対象

- (1) YYボランティアサークルで活動している中高生及び担当者
- (2) 高校の部活動等でボランティア活動を行っている高校生及び担当者
- (3) 青少年ボランティアに興味・関心のある方

4 日程

- 9:30 受付開始
10:00 開講式
10:30 講演「地域食堂あまやどりの活動から考えるSDGs」
講師：小川 真実 氏 (Zu-Zu-Z)
(昼食・休憩)
13:00 ワークショップ
「世代間交流のスキルを学ぶ」
講師：海老名智美 氏
(県立山辺高等学校福祉科)
14:15 ボランティア活動
「世代間交流の実践 (オンライン)」
協力：医療法人社団 緑愛会
15:00 振り返り・全体共有・チェックアウト
15:20 閉講式・アンケート記入



5 参加者

参加者総数14名 (高校生13名、大学生1名)



6 成果・課題

(1) 成果

- ①高校生との接点が薄い、地域食堂をテーマにすることでSDGs、貧困、障がい、世代間交流、ボランティアのキーワードに現代的課題に向き合うことができた。
- ②専門教育に携わる教員からの事前の指導により、高齢者や障がい者とのコミュニケーションのスキルを学ぶことができた。
- ③実際の高齢者施設との交流については、戸惑いながらも一生懸命向かい合いコミュニケーションをとる姿はボランティア活動に対する熱い思いを感じた。普段学校では体験できない機会を提供できた。

(2) 課題

- ①前日に参加できない高校が出てきてしまったことは非常に残念であった。参加した生徒に対しては安全安心な講座になるよう万全な体制で準備する。



(4) ボランティアの集い

1 ねらい

- (1) ボランティア活動に携わる青少年の交流を促進する。
- (2) ボランティア活動のスキルを身に付ける。

2 期日・会場

令和5年1月28日(土)・県青年の家

3 参加対象

- (1) 現在ボランティアサークル等で活動されている高校生以上の方
- (2) 今後ボランティアサークル等で活動したいと考えている高校生以上の方
- (3) 今後ボランティアサークル等を立ち上げたいと考えている高校生以上の方

4 日程

- 9:50 開講式
- 10:00 アイスブレイキングでワクワク
講師：土橋 明晃 研修主査
- 11:00 バルーンアートでワクワク
講師：高橋 翼 氏
(バルーンアートのつばさくん)
- 12:00 写真撮影
- 12:10 昼食・休憩
- 13:00 YYボランティアサークルでワクワク
- (1) 山形県青年の家コーディネートボランティアサークル「nicoこえ」事例発表
講師：石井貴之の研修主査と「nicoこえ」メンバー
 - (2) YYボランティアをやってみよう！ワクワクさせよう！
講師：沼澤 欣一 研修課長
- 15:40 閉講式



5 参加者

参加者総数40名

(社会人6名、高校生24名、nicoこえ10名)



6 成果・課題

(1) 成果

アンケートの結果を見ると、「参加してよかった」「ぜひまた参加した」「とても楽しく考えることができた」「積極的にボランティアをしていきたい」などの意見が多く、目的は達成された研修会となった。「nicoこえ」のメンバーの成長が感じられた。目的を持った上でやりたいことを提案し、仲間の意見に賛同し、皆で協力して、しかも楽しく活動するという形ができており、発表にも行動にも自信を感じることができた。現在加入しているサークルや学校(学校祭など)で今回学んだボランティアを実践してみたいという声も多かった。

(2) 課題

バルーンアートに関して、少数ではあるが「怖い」と感じる参加者がいた。これに限らず様々な配慮が必要であり、事前にアナウンスすることも大切だと感じた。体調不良等により当日欠席が多かった。特に昼食代等に影響するため対応が難しい。

(5) 青年の家コーディネートボランティアサークル「nicoこえ」運営

1 ねらい

- (1) サークルメンバー募集形式を採用することにより、青年の家研修課の直接的かつ継続的な支援がある青少年ボランティアを実現する。
- (2) 青少年の社会貢献への意欲や自己成長への希望に応える、継続性のある多様な活動や交流機会を提供し、人と人とのつながりに学ぶ青少年の拠点施設としての役割を果たす。
本所研修課職員の青少年育成に係る専門的知識・技術や本所が有する人的ネットワークを活用したボランティア活動を実現する。
- (3) ボランティアサークルの継続的支援を通して得たボランティア指導に係る情報や知見を、本所の研修事業の質の向上に活用する。

2 募集期間

通年

3 対象

高校生、大学・短大・専門学校生等
(天童市エリアでの活動に参加できる方)

《現メンバー (R 5 / 2 / 15現在)》

野口 翔太 (山形大学4年) ※代表

小林奈津美 (山形大学2年)

都 文音 (中央大学1年)

阿部 苺子 (山辺高校2年)

伊藤 凜乃 (山形北高校2年)

井上 利玖 (左沢高校2年)

荒木 美咲 (山辺高校2年)

菊池 柚香 (山辺高校2年)

佐々木 真 (創学館高校2年)

新松 更紗 (山辺高校2年)

鈴木 陸 (創学館高校2年)

林 大翔 (山辺高校2年)

平田 寧々 (東海大山形高校2年)

日向 杏帆 (山形北高校2年)

矢作 裕美 (山辺高校2年)

渡辺 紗矢 (山辺高校2年)

伊藤 莉音 (天童高校1年)

大石 璃虹 (山辺高校1年)

鈴木 愛子 (山形東高校1年)

山口 玲美 (天童高校1年)

伊藤 奏 (寒河江高校1年)

4 名称由来、活動方針等

青年の家コーディネートボランティアサークル

nicoこえ

☆名前の由来は？

「nico」→ニコニコ、スマイル、笑顔、楽しい
「こえ」→人種や地域、年齢などを越えて話せる
若者が声をあげる、地域の声を聴く

☆活動方針は？

「笑顔」 = Smile	→	頭文字を並べると
「向上」 = Onward		「SOLE」
「生活」 = Life		英語で「唯一の」
「楽しむ」 = Enjoy		伊語で「太陽」

研修生1 ◆ 3月25日 12:05 - 編集済み

今日使ったロゴマークです👤

(ちなみに、右側が橋になっていて「橋渡し」「つなぎ合わせる」といった意味と、左側がグラデーションになっていて下の方でぴったり色が馴染むので「地域や年代が違って笑顔となる理由は同じだよ」といった意味を込めてみました...!)

5 活動の柱

- (1) グリーンモール天童商店街活性化
- (2) ウォーターエイド募金
(世界にきれいな水とトイレを届ける)
- (3) レモネードスタンド (小児がん支援)
- (4) 園児たちとのお楽しみ会
- (5) ゴミ拾い等日常的な活動

6 活動日 (全31回)

青年の家コーディネートボランティアサークル

nicoこえ

☆結成2021年⇒活動開始2022年7月17日
☆主なフィールド⇒天童市・山形市
☆活動拠点 ⇒山形県青年の家
☆毎月第2・4日曜日が「活動日」
☆毎月第1・3土曜日が「個人活動日」
☆「山形県青年の家コーディネート」
+天童市教育委員会生涯学習課
+天童市社会福祉協議会

☆原則第2・第4日曜日

〈活動実績〉

- 7/17(日) 顔合わせ・ミーティング
- 7/24(日) グリーンモール天童商店街調査
ゴミ拾い
- 8/5(金) ひだまりハウス訪問
(レモネードスタンド依頼)
天童温泉街～青年の家ゴミ拾い
- 8/9(火) 新潟駒書き



- 8/26(金)27(日) 山辺高校学校祭募金
(ウォーターエイド)
- 9/11(日) ミーティング・新潟駒書き
- 9/17(土) レモネードスタンド準備
- 9/18(日) 日本一の芋煮会フェスティバルボラ
- 10/1(土) アルビレックス新潟駒配り
グリーンモール天童商店街ゴミ拾い
水戸ホーリーホック駒書き
- 10/8(土) レモネードスタンド準備
舞鶴山一周ゴミ拾い
- 10/9(日) レモネードスタンド
(天童最上川温泉ゆぴあマルシェ)
水戸ホーリーホック駒配り
- 10/15(土) スポGOMI参加
(ビッグウイング・駅前公園)
- 10/21(金) 創学館高校学校祭募金
(ウォーターエイド)
- 10/23(日) 徳島ヴォルティス駒配り
県総合運動公園周辺ゴミ拾い
赤い羽根共同募金 (NDスタ)



- 11/3(木) レモネードスタンド
(山形市・SDGs MARCHE)



- 11/13(日) クリスマス会準備
- 11/27(日) 山形新聞社取材・クリスマス会準備
- 12/4(日) クリスマス会準備・ゴミ拾い
- 12/10(土) クリスマス会準備
- 12/11(日) 「ちょっとはやいクリスマスかい」



- 12/27(火) 2022年振り返り
ボランティアの集い準備
- 1/8(日) 2023年事業確認
ボランティアの集い準備
- 1/18(水) ジョイングループより助成金受領
- 1/22(日) ボランティアの集い準備
- 1/26(木) 荘内銀行ふるさと創造基金 応募
- 1/28(土) 主催事業「ボランティアの集い」
nicoこえ活動事例報告
- 2/4(土) 最上地区ヤングボランティア交流会
- 2/12(日) レモネード準備等
保護者のつどい
- 2/26(日) レモネードスタンド
(天童最上川温泉ゆぴあマルシェ)
- 3/9(木)10(金) 春の強化合宿
- 3/12(日) 活動ミーティング、ゴミ拾い等
- 3/19(月) 活動ミーティング、ゴミ拾い等
- 3/26(日) 活動ミーティング、ゴミ拾い等
レモネードスタンド準備等

7 成果・課題

(1) 成果

- ① ボランティアに興味関心、そして意欲のあるメンバーが集まり、実質的な指導日である7月17日以降、非常に活発なボランティア活動を展開することができた。メンバーも当初の倍以上となり、野口翔太代表の下、様々な企画を提案し、協力して準備を行い、諸活動を実践する形づくりができた。
- ② グリーンモール天童商店街活性化については、特に「モンテアウェイサポーターおもてなし企画」に関わり、小出浩太郎氏（小出大佛）のご指導の下、選手名の駒作製し試合当日朝にたちばなや薬局協特設会場にて配布を行った。また、日常的なゴミ拾い活動に従事した。
- ③ ウォーターエイド募金については、山辺高校および創学館高校の学校祭で募金活動を行った他、東海大山形高校では活動の紹介を行った。募金総額は13,780円であった。
- ④ レモネードスタンドに関しては天童最上川温泉ゆびあ（ゆびあマルシェ）およびエンジョインサロン（SDGs MARCHE）で開催することができた。売上および募金を合わせた総額24,443円をレモネードスタンド普及協会へお渡しした。
- ⑤ 園児たちとのお楽しみ会に関しては、12月11日（日）に「ちょっとはやいクリスマスかい」を開催し、15組の親子に参加いただいた。アイスブレイキング、クリスマスソング、段ボールクリスマスツリーの飾りつけ、絵本の読み聞かせ、サンタさんとの宝探し、お菓子引換券配布などを行い、子どもたちと楽しく触れ合うことができた。
- ⑥ その他、日常的なゴミ拾い活動、日本一の芋煮会フェスティバル、スポGOMI、赤い羽根共同募金など多くのボランティア活動に参加したほか、2月には「保護者のつどい」、3月には「合宿」を行った。
- ⑦ どんな場面においても笑顔を絶やさず、楽しみながら協力して活動する姿は大変立派であった。主催事業「ボランティアの集い」では活動事例報告のみならず、ワークショップなどにおいても中心となって活動する姿に多くの方々から高い評価をいただいた。活動を評価していただき、株式会社ジョイン

様より10,000円の助成金をいただいた。

YYボランティアサークルの理念に基づいた、模範的なサークル活動ができているように思う。

(2) 課題

- ① 素晴らしい活動ができているが、1番の課題は新メンバーの問題である。野口代表も大学を卒業し県外に就職となるとともに、これまで中心を担ってきたメンバーが高校3年生になる。今後は新高校2年生以下のメンバーの育成が急務である。

また、活動が活発化するとともに費用がかかるため、助成金などを申請していく必要がある。



12月15日(木) 山形新聞社「キミへ」に掲載



(6) 青少年防災・減災未来フォーラム2022

1 ねらい

東日本大震災から11年、防災・減災の意識を高める教育が大切であり、特に次世代を担う若者の防災意識と社会参画意識の育成が必要である。これからの担い手である青少年に対話と実践を通し「助けられる」から「助ける」への意識を育む。

2 期日・会場

令和4年9月17日(土)・県青年の家

3 参加対象

県内の高校生、大学・短大・専門学校生等 40名

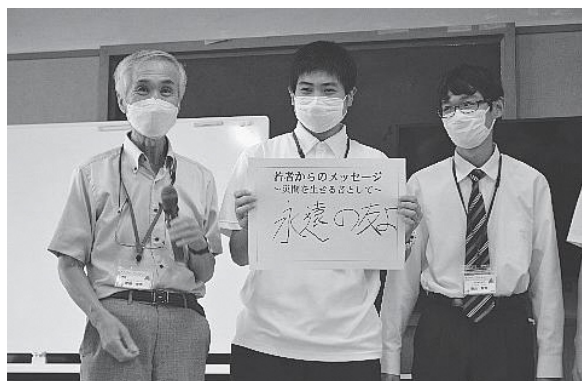
4 日程

- 9:00 受付開始
- 9:30 オープニング
- 9:40 講演「災害時、何が必要か？」
講師 古川 昭彦氏
(県防災くらし安心部防災危機管理課
防災教育推進主幹)
- 10:20 ワークショップ①
「避難所運営の実際と教訓」
講師 齋藤 幸男氏
(東北大学非常勤講師)
- 12:20 昼食休憩
- 13:15 防災ミニツアー
(避難所用ベッド・テント・非常食・
パネル等の紹介)
- 13:30 ワークショップ②
「災害初動期からの対応」
- 15:00 若者からのメッセージ
「災間を生きる者として～命と向き合
い、いのちをつなぐ防災～」
- 15:30 振り返り、アンケート記入
- 15:45 クロージング



5 参加者

参加者総数34名(高校生33名、成人1名)



6 成果・課題

(1) 成果

- ①高校生に対する防災教育の視点で、県の防災危機管理課と協力することで次世代のリーダー育成につなげることができた。
- ②東日本大震災の教訓を後世に伝えるべく活動している齋藤氏と出会い、山形県で初めて講座を開き、県内の高校生に伝えることができたことは多大な成果である。
- ③参加生徒にとって、初めての本格的な防災研修会であり、アンケートを見る限り、防災・減災に対する意識改革と非常時の行動力が身に付いたものと思われる。

(2) 課題

- ①募集を早めにして周知の徹底を図ったが、申し込みがなく、急遽各校の先生方に再度募集を依頼し、やっと参加者が増加した。要項・チラシの分かりやすさや生徒への周知の仕方を検討すべきである。



(7) 地域をつくるリーダーセミナー

1 ねらい

- (1) 地域をつくる人材の育成を目指した学習を通し、生徒会役員として学校づくりを牽引してきた経験を、将来の地域づくりにも活かしていけるよう育成する。
- (2) 地域社会に目を向け仲間と活動している方や人と人との関わりを研究している方による実践的な学習を通し、リーダーに期待される資質能力を育成する。
- (3) 県内各高等学校の生徒会役員等の相互交流及びネットワーク形成を支援する。

2 期日・会場

- (1) 令和4年12月10日(土)
山形県青年の家(内陸会場)
- (2) 令和4年12月18日(日)
酒田駅前交流拠点施設ミライニ(庄内会場)

3 参加対象

県内各高等学校の生徒会役員等(各校3名程度)

4 日程・内容

- 10:00 開講式
10:10 自己紹介・ポスターセッション
(各学校の地域活動紹介)
11:10 青年リーダーからのメッセージ
「地域の温かさと学生の活力で芽吹く“Team道草”」
講師 山形大学地域連携型サークルTeam道草
石藤 巧大氏 加藤 那実氏
「僕の使命は地球への恩返し」
講師 地域活動実践者 五十嵐 丈氏
13:00 ワークショップ
「学校と地域を活性化するための、人をまきこみ活動を展開していく発想力と会話力を身につけよう！」
講師 尚絅学院大学人文社会学群人文社会学類
教授 松田 道雄氏
15:50 閉講式



5 参加者

- (1) 参加総数36名
(高校生31名、教職員5名 参加校数11校)
- (2) 参加総数21名
(高校生15名、教職員6名 参加校数6校)

6 成果と課題

- (1) 成果
 - ①各校の地域活動などをポスターセッションによって情報交換することで、今後の自校での活動の参考になったという声が数多く寄せられた。
 - ②地域おこしにおいて第一線で活躍している方の実践例を学ぶことで、地域に貢献するための具体的な方法をイメージ化できた。
 - ③ワークショップを通して、他校の活動や問題点、自分達の活動へのアドバイスなど様々な意見が聴けたことで有意義な活動となった。
- (2) 課題

「他校の人と関われる数少ない機会です、とても有意義な時間でした。」という意見が多く寄せられたことから、次年度は更に参加校を増やして、様々な学校と意見交換をする場を提供できるようにしたい。



(8) 持続可能な社会づくり体験1 「SDGs×スポGOMI」

1 ねらい

- (1) 環境美化活動を通し、「地域の環境と文化の継承」に自立と共助の精神を持って行動する青少年を育成する。
- (2) 持続可能な社会づくりへの参画を目指し、コミュニケーションを行う力・他者と協力する力・繋がりを尊重する態度・進んで参加する態度を育成する。

2 期日・会場

令和4年6月25日(土)

会場：山形県青年の家・天童公園（舞鶴山）

3 参加対象

中学高校生・大学生・一般県民 定員30名

4 日程・内容

9：30 開講式

9：40 講座「海の豊かさを守るために私達ができること」

講師 美しい山形・最上川フォーラム
安部 明子 氏

10：20 舞鶴山でスポGOMI体験

11：10 ゴール地点でチームごと計量

11：40 閉講式

5 参加者

参加者総数50名

(高校生43名・大学生1名・成人6名)



6 成果と課題

(1) 成果

- ①参加者の感想を見ると、「町をきれいにすることができてよかった。」「ゴミの量（総重量20.5kg）を見てきれいになったことが実感できた。」「SDGsの視点で環境をみることができた。」「グループの仲間と交流が図れた。」との肯定的な意見が多く、大変好評であった。
- ②高校生だけでなく、大学生や成人と交流を持つことで学校では体験できない地域貢献活動になった。
- ③事後のアンケートの「同じような企画があったらまた参加するか」との問いに9割以上が「参加する」と応えており、参加者に今後の活動の芽をしっかりと蒔くことができた。

(2) 課題

例年30名程度で実施している本事業に、160名以上の応募総数となり、参加希望者がすべて体験できなかったことが非常に残念であった。お断りする場合は、代替案となる別のボランティア活動を案内できるように事前に情報収集しておく必要性を感じた。



(8) 持続可能な社会づくり体験2「SDGs×地域文化」

1 ねらい

- (1) 山形におけるSDGsの現況を学び、持続可能な社会づくりを実践する次世代のリーダーを育成する。
- (2) 書駒体験を通して、その歴史や分化を学ぶとともに伝統的工芸品に触れる機会を持つことで歴史・文化の継承に寄与する。ボランティアに携わる青少年等に、ボランティアに対する理解を深め、活動に役立つ知識・技術を習得し、新たな活動分野について考える機会を提供する。

2 期日・会場

令和5年1月14日(土)・県青年の家

3 参加対象

中学生・高校生・短大生・大学生等

4 日程

- 9:30 開講式
9:40 講演「持続可能な観光地域づくり」
講師：後藤 里穂 氏
(株式会社DMC天童温泉)
10:40 ワークショップ
講師：工藤 美季 氏
(ホワイトボード・ミーティング®認定講師)
12:10 昼食・休憩
13:00 書駒体験
講師：長谷川吉美 氏、片山 健作 氏
(株式会社天童タワー)
14:00 天童の歴史ドキュメンタリー「吉田大八」
講師：研修主査 石井 貴之
14:40 アンケート記入・閉講式・写真撮影



5 参加者

参加者総数25名

(社会人4名、大学生5名、高校生16名)



6 成果・課題

(1) 成果

アンケートでは講演、ワークショップ、書駒体験のすべてにおいて「とてもよかった」および「よかった」との解答であったため、良い研修となった。天童の観光を学ぶとともに参加者が日頃生活している地域に思いを馳せるきっかけになった。また、「ホワイトボード・ミーティング®」という話し合いの新しい手法を学び、活発な意見交換が行われた。書駒体験については、講師の方々の丁寧なご指導により立派な駒が次々と完成していき、参加者にとっても素晴らしい記念になったものと思われる。

(2) 課題

募集時期に関して、年末年始を挟む場合は年始をもう少し期間が取れるよう日程調整すべきであり、また、当日はほとんどの高校が模擬試験を実施していたため、一週ずらすなどの対応が必要である。巡見等の企画もできればより理解が深まるだろう。



(9) 若者自立支援体験活動1 「スポーツでわいわい」

1 ねらい

青少年の「ひきこもり」を支援するためにスポーツを楽しみながら人と交流できる場を提供する。また、あたたかい触れ合いの中で活動することで、心身のリフレッシュを図り、社会参加を促す。

2 期日・会場

令和4年6月8日(水)・山形県青年の家

3 参加対象

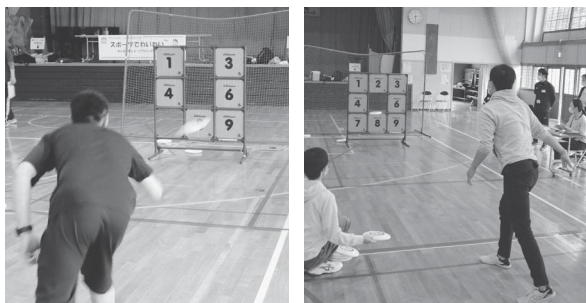
来所当事者支援をしている「ひきこもり」支援関係機関及び民間支援団体(定員20名程度)

4 日程

13:00~13:30 受付
13:30~13:40 開会
13:40~15:10 スポーツ(フライングディスク)
15:10~15:20 閉会

5 講師

鈴木 一成 氏(山形県社会福祉会理事長)
石川 芳信 氏(フライングディスク指導員)



6 参加者

蔵王いこいの里	11名
から・ころセンター	4名
発達支援研究センター	3名
天童市アウトースクール	4名
計	22名



7 成果・課題

(1) 成果

アンケートでは「大変楽しかった」「楽しかった」が95%、また、「今後も参加したい」「参加を考える」が95%であったことから、概ね満足していただけたようだ。事業所の枠を超えてチームを結成したが、どのチームも笑顔で打ち解けて活動していた。全員に賞状を配布したが、アンケートの中に「賞状がうれしかった」とあり、喜んでもらえたようだ。競技や運営補助を希望する者もみられた。今年度新たに天童市教育委員会との連携を図り、天童市アウトースクールの児童・生徒にも参加してもらったが、大変楽しく参加してくれた。

(2) 課題

練習時間の不足は否めず、今後は実施時間を30分程度長く計画すべきであった。事業所の行事と重なり参加できなかった方やいるので、引率の関係で参加したいのに参加できないという方もいる。事前に各事業所との連携・確認をすべきであるとともに、開催時期や曜日なども今後の検討課題と考える。



(9) 若者自立支援体験活動2「アートでわいわい」

1 ねらい

青少年の「ひきこもり」を支援するためにスポーツを楽しみながら人と交流できる場を提供する。また、あたたかい触れ合いの中で活動することで、心身のリフレッシュを図り、社会参加を促す。

2 期日・会場

令和4年10月19日(水)・山形県青年の家

3 参加対象

支援関係機関及び民間支援団体に来所している青少年とその指導者

4 日程

13:00～受付

13:30～開会行事

13:40～アイスブレイキング

講師：研修主査 土橋 明晃

13:50～アート活動(版画)

講師：城山 萌々 氏

土井友希子 氏

(天童アートロードプロジェクト)

15:20～アンケート記入・閉会行事

写真撮影



5 参加者

蔵王いこいの里	13名
発達支援研究センター	2名
Free school terra	4名
計	19名



6 成果・課題

(1) 成果

アンケートではアイスブレイキング、版画ともに「大変楽しかった」「楽しかった」が100%。また、「今後も参加したい」「参加を考える」が100%であったことから、概ね満足していただけたようだ。『蔵王いこいの里』では施設の行事として常に参加して下さっている。33歳の青年から、6歳の小学生まで幅広い年齢層であったが、講師の先生や各事業所の指導者の方々からのサポートもあり、全員が作品をつくり上げることができた。作品1枚1枚に微妙な色のズレが生じたり、あるいは意図的に違いを作り出すなど、参加者たちは試行錯誤しながら集中して作業し、できた作品を満足げに並べて見つめる姿が印象的であった。今回新たに天童市の「Free school Terra」からも参加していただいたが、終始大変楽しく参加してくれていた。

(2) 課題

事業所の行事と重なり参加できなかった方や、引率の関係で参加したいのに参加できないという方もいる。各事業所との連携・確認をすべきであるとともに、開催時期や曜日なども今後の検討課題と考える。



(10) 家庭教育支援研修会 1 「食育×スポーツ」

1 ねらい

子育てに係る知識を親子で共に学び、体験を通し育ち合う。

2 期日・会場

令和4年7月2日(土)・山形県青年の家

3 参加対象

小学校低学年(1～3年生)の児童とその保護者

4 日程・内容

- 13:30 開会行事(大研修室)
- 13:40～14:30 講義「バランスよく食べて心も体も健康・元気」(大研修室)
- 14:40～14:50 ウォーミングアップ(体育館または芝生広場)
- 14:50～16:10 軽スポーツ体験「親子で楽しむスラックライン」(芝生広場)
- 16:20～16:30 閉会行事とふりかえり(大研修室)

5 講師

- 佐藤 幸恵 氏
(山形県教育庁スポーツ保健課 食育担当主査)
- 井上 祐 氏
(山形県立東桜学館高等学校教諭
(一社)日本スラックライン連盟公認C級インストラクター)
- 小池 智也 氏
(スラックラインインストラクター)

6 参加者

7組14名



7 成果と課題

(1) 成果

アンケートでは「大変良かった」「大変楽しかった」「また参加したい」が100%であったため、大変満足していただけたようだ。佐藤幸恵先生の、わかりやすく、軽快で、楽しいお話、井上祐先生のわかりやすい、そして熱いご指導は親子の心をつかみ、あっという間の時間のよう感じた。また、スラックラインでは、親が子をサポートするだけでなく子が親をサポートする場面も多く見られ、小学生の大人びた表情も見られるなど、心の成長も期待できるものとなった。

(2) 課題

やまがたe申請での募集を行ったが、応募があったもののその後連絡がつかず欠席という事例があった。募集や参加確認に関して検討の余地がある。保険の契約内容の関係上、20名以上であれば100円ですべてをカバーできるため、キャンセル等のことを考慮すれば募集人数を25名以上にするなど検討していく。



(10) 家庭教育支援研修会2 「コミュニケーション×アート」

1 ねらい

児童とその保護者を対象に、コミュニケーションに係る知識を親子で共に学び、アート活動を通して育ち合う。

2 期日・会場

令和4年11月12日(土)・山形県青年の家

3 参加対象

小学校低学年(1～3年生)とその保護者

4 日程・内容

13:00 開講式

13:10 講義「コミュニケーションゲームでもっと仲良く」

講師 笹原 英子 氏

(山形県家庭教育アドバイザー・公認心理師)

14:10 アート活動「ハデハデ! バースデーぼうしをつくろう」

講師 石沢 恵理 氏

早坂 美紅 氏

(天童アートロードプロジェクト実行委員)

16:10 閉講式

5 参加者

参加者総数9名(小学生4名・保護者5名)



6 成果と課題

(1) 成果

家庭教育支援研修会でアート活動を取り入れたのは今年が初めてで、参加希望者数も伸び悩んだが、結果的に参加者からのアンケートは大変好評であった。参加した子ども達も、保護者からももらったぼうしを嬉しそうに被って帰っていく後ろ姿からも親子の絆が深まったことが見て取れた。

(2) 課題

①当初、チラシ配布は近隣の市町村の放課後児童クラブへの配布であったため、来年度は児童遊戯施設等へのポスター掲示やチラシの設置も積極的をお願いし、参加希望者の増加につなげたい。

②参加費用を抑えることで、誰もが気軽に参加できる条件を設定したい。



3 令和4年度研修利用団体一覧

1 子ども会の研修

天童市子ども会育成会連合会

2 幼稚園・保育園の研修

なし

3 小学校やスポーツ少年団等の研修

け や き J V C	みはらしV☆STAR JVC男子	天 J ソフトテニス
天童ミラクルV. CLUB	スマイルチェリーズ	バスケットボールスクールハーツ山形

4 中学校の研修

(1) 学年宿泊研修

なし

(2) 生徒会リーダー研修会

なし

(3) 部活動研修

寒河江市立陵南中学校女子バレーボール部	東根二中・尾花沢中学校男子バスケットボール部	上市市立南中学校男子バスケットボール部
---------------------	------------------------	---------------------

(4) その他

I s t. R e v. B C	I バ ド	かしわ男子バスケットボールクラブ
R48バスケットボールスポーツ少年団	T G B スポーツ少年団	K B C
サンデーシャトルズ	A T 4 B	ブルーウィロー
山形マイルガールズ	W B C	西崎女子ソフトテニスクラブ
西崎クラブ	S P T	

5 高等学校の研修

(1) 学年宿泊研修

なし

(2) 生徒会リーダー研修会

なし

(3) 高校関係諸団体

山形県総合学科高等学校発表交流会

(4) 部活動関係

天童高等学校陸上競技部	山形西高等学校書道部	羽黒高等学校女子バスケットボール部
-------------	------------	-------------------

(5) その他

スマイルスター

6 大学・短期大学の研修

(1) 学校関係

なし

(2) サークル合宿等

山形大学競技舞踏部

7 専修学校・各種学校の宿泊研修

(1) 学校関係

なし

(2) サークル合宿等

なし

8 企業等の研修

(1) 新入社員研修

なし

(2) 社員研修・会議

株式会社 山形ビルサービス	日 東 ベ ス ト	山形日産自動車株式会社
朝日生命保険(相)山形支社天童営業所		

9 行政等の研修

生涯教育・学習振興課「東北大学社会教育主事講習」

10 社会教育団体の研修

ボーイスカウト山形県連盟	山形県キャンプ協会
--------------	-----------

11 サークル等の研修

フルハウス山形支部

12 ボランティア関係

村山教育事務所「MYボランティアスキルアップセミナー」	n i c o こ え
-----------------------------	-------------

13 その他

K S B (健康促進部)	ローターアクト	放課後等デイサービス事業所「つぼみ」
夢追人 Dreamers	山形放送株式会社	山形県民間教育研究団体連絡協議会
蔵王かえでの会	あかねエンジョイクラブ	

4 令和4年度研修利用状況

(1) 主催・受入事業別利用状況

主催研修			受入研修			合計		
団体数	実人数	延人数	団体数	実人数	延人数	団体数	実人数	延人数
28	439	439	204	3,384	3,682	232	3,823	4,121

(2) 団体別利用状況

ア 成人・一般

区分	団体数	実人数
社会教育	155	303
企業関係	10	282
その他	57	173
計	222	758

イ 幼児・児童・生徒・学生

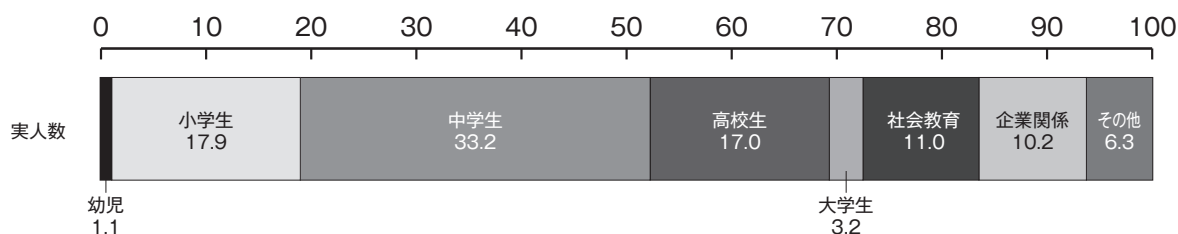
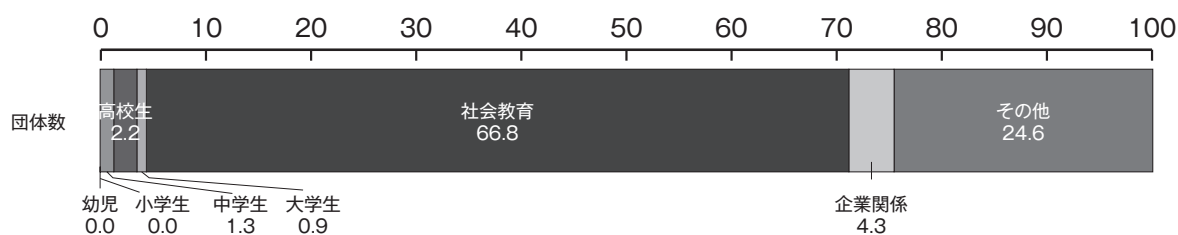
区分	団体数	実人数
幼児	0	30
小学生	0	494
中学生	3	914
高校生	5	469
大学生	2	89
計	10	1,996

ウ 指導者・引率者

実人数
1,069

(3) 利用状況の割合（団体・利用者）

区分	幼児	小学生	中学生	高校生	大学生	社会教育	企業関係	その他	計
団体数	0	0	3	5	2	155	10	57	232
%	0.0	0.0	1.3	2.2	0.9	66.8	4.3	24.6	100
実人数	30	494	914	469	89	303	282	173	2,754
%	1.1	17.9	33.2	17.0	3.2	11.0	10.2	6.3	100



(4) 宿泊数別利用状況

区 分	日 帰 り	1 泊	2 泊	3 泊	4泊以上	合 計
団体数	222	7	1	0	2	232
%	95.7	3.0	0.4	0.0	0.9	100.0
実人数	3,637	139	14	1	32	3,823
%	95.1	3.6	0.4	0.0	0.8	100.0

(5) 月別利用状況

月	研修日数	団体数	実人数	延人数	1日平均人数	利用率(%)
4	30	2	44	44	1.5	0.7%
5	31	4	55	55	1.8	0.8%
6	30	21	386	406	13.5	6.3%
7	31	33	369	369	11.9	5.6%
8	31	21	341	456	14.7	6.9%
9	28	18	262	262	9.4	4.4%
10	31	28	483	516	16.6	7.8%
11	28	24	365	365	13.0	6.1%
12	28	24	412	412	14.7	6.9%
1	27	27	491	511	18.9	8.8%
2	26	17	286	335	12.9	6.0%
3	19	13	329	390	20.5	9.6%
計	340	232	3,823	4,121	12.1	5.7%

(6) 年度別利用状況

年 度	研修団体数	研修実人数	研修延人数
昭和42年度～平成20年度	15,826	505,370	1,067,556
21	475	10,956	14,291
22	469	11,114	15,221
23	516	12,709	16,510
24	546	14,529	20,792
25	528	12,847	18,140
26	495	11,306	15,503
27	500	11,764	15,813
28	511	11,000	15,390
29	441	9,593	13,630
30	381	9,476	13,938
令和元年度	289	6,718	9,106
2	289	4,259	4,325
3	240	3,622	3,835
4	232	3,823	4,121
計	21,738	639,086	1,248,171

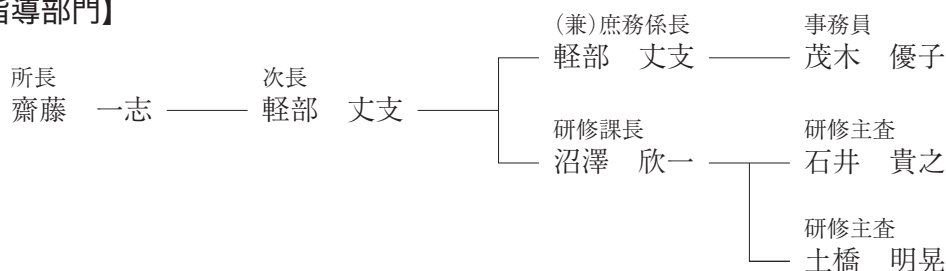
※数値は令和5年3月19日現在のもの

5 令和4年度研修利用実績一覧

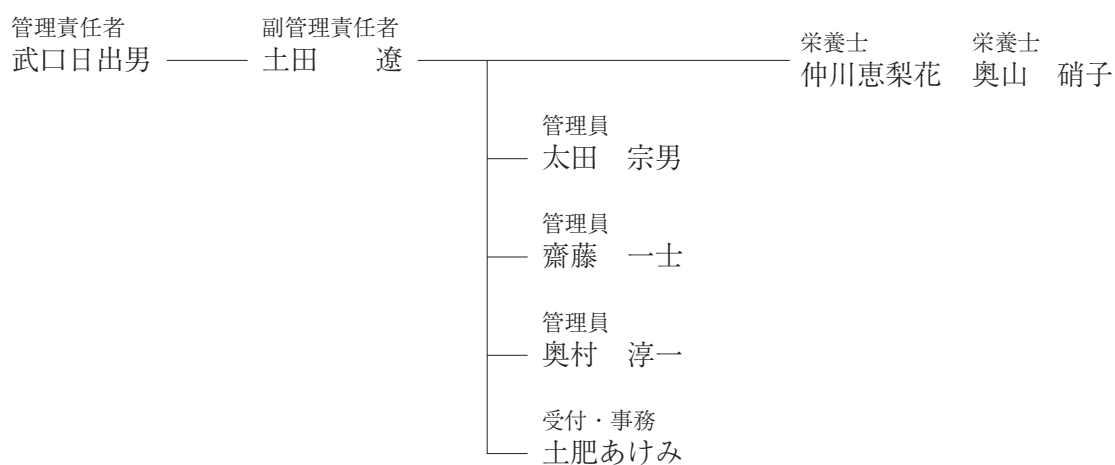
期間	利用者区分		幼児・児童・生徒・学生					成人・一般				実利用者数		利用者総数		開所日数	研修日数		
	人数	団体	幼児	小学生	中学生	高校生	大学生	小計	社会教育	企業関係	その他	小計	指導者	計	累計			計	累計
4月	0	0	0	0	0	0	0	0	44	0	0	44	0	44	44	44	44	0.7%	30
5月	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2	10	55	99	55	99	0.8%	31
6月	1	44	43	62	1	151	30	97	31	158	77	386	485	21	27	406	505	6.3%	30
7月	4	71	30	36	4	145	51	63	44	158	66	369	854	33	60	369	854	5.6%	31
8月	0	36	45	37	33	151	94	3	28	125	65	341	1,195	21	81	456	1,330	6.9%	31
9月	1	36	61	68	4	170	0	0	1	19	91	262	1,457	18	99	262	1,592	4.4%	28
10月	2	98	92	55	1	248	13	69	21	103	132	483	1,940	28	127	516	2,108	7.8%	31
11月	2	50	115	39	7	213	1	30	5	36	116	365	2,305	24	151	365	2,473	6.1%	28
12月	16	48	137	71	3	275	0	0	35	35	102	412	2,717	24	175	412	2,885	6.9%	28
1月	1	64	169	66	6	306	3	20	4	27	158	491	3,208	27	202	511	3,396	8.8%	27
2月	1	22	109	13	28	173	21	0	4	25	88	286	3,494	17	219	335	3,731	6.0%	26
3月	2	23	108	18	2	153	12	0	0	12	164	329	3,823	13	232	390	4,121	9.6%	19
合計	30	494	914	469	89	1,996	303	282	173	758	1,069	3,823	3,823	232	232	4,121	4,121	20.4%	340

6 組織および職員構成

【指導部門】



【管理部門】 ※山形県青年の家管理企業体（指定管理者）



令和4年度 研修のあゆみ 一年報

発行 令和5年3月31日
 編集・発行 山形県青年の家
 〒994-0032 山形県天童市小路一丁目7番8号
 TEL 023-654-4545
 FAX 023-652-2007
 <ホームページ>
 URL : <https://www.pref.yamagata.jp/701005/kensei/shoukai/soshikiannai/kyoiku/701005html>
 <YYボランティアビューロー>
 URL : <https://seinen.jp>
 <ツイッター>
 URL : https://twitter.com/seinen_yamagata
 <インスタグラム>
 URL : https://www.instagram.com/seinen_yamagata
 <ユーチューブ>
 URL : https://www.youtube.com/@seinen_yamagata

印刷 株式会社 大風印刷 営業企画事業部 天童営業所
 山形県天童市東久野本一丁目1番45号